

## 曹洞宗別格地 興國山清涼寺略縁起

曹洞宗興國山清涼寺は、佐竹南家三代義種の代に『常州三ヶ寺』（常陸太田の耕山寺・水戸の天徳寺・石岡の清涼寺）の一つに数えられ佐竹氏の三天名刹寺院である。末寺三ヶ寺を有する。

曹洞宗春林山清涼寺は約五百四十年前の文明十二年（一四八〇・戦国時代）、寒室永旭大和尚（一五〇一）文龜元年十月十八日示寂）を開山として常陸太田に開創する。開基は佐竹南家初代義里である。義里の母佐竹義舜の夫人（岩城氏の娘）は、長年に亘り、清涼寺を信仰し外護者として守つてきた。永正十二年（一五二五）佐竹義里（初名義隆）を生むと産後の肥立ちが悪く、同年十一月十九日三十二歳で亡くなり、しかも、二年後の永正十四年二月十三日に父佐竹十六代宗家義舜は亡くなった。

その後、佐竹義里は、天文年間（一五三二～一五五五）に母の菩提を弔うために母の信仰していた清涼寺の開基（清涼寺殿無外徹公大禪定門）となり南家菩提寺として復興した。その時の住職は、清涼寺二世淳室宗朴大和尚（天文十一年九月六日示寂）で、永祿年間に、佐竹義里は亡くなる。

天正十八年（一五九〇）十二月二十二日佐竹二十代宗家義宣と大掾清幹との「府中城の戦い」で尼寺ヶ原にある「真言宗興國寺」は焼失した。佐竹義宣は松平信久に府中城の修築を命じ、又、佐竹南家三代左衛門尉義種（二十四歳）も府中に移住した。

二年後、佐竹義種（南家三代・二十六歳）が町の復興に先立ち、元徳二年（一三三〇・鎌倉時代）に興國尼が開山した『真言宗興國寺』を、曹洞宗に改宗し、常陸太田にある佐竹南家菩提寺『曹洞宗春林山清涼寺』に吸収し、山号を興國山に換え『曹洞宗興國山清涼寺』とし、戦乱の世が収まるようにとの願いから、文祿元年（一五九二）十月交通の要所（石岡に在る水戸街道に面した唯一の寺院）である現在地に、四世仲岩文策大和尚（慶長元年一月二十一日示寂）を請して移転し、再建開基となる。

以後、佐竹扇（月印五本骨軍扇）を寺文とし佐竹南家の菩提寺として連綿と続いています。文祿元年（一五九二）佐竹義種本堂建立。文化三年（一八〇六）檀頭代官篠原郷衛門本堂再建。明治十九年（一八八六）檀頭村田正恭本堂再建。平成二十二年本堂再建。僧侶の修行道場『市中禅林』（古来より中本山と呼ばれ、後に大正九年別格地となる）として、戦前まで雲水が修行していました。

興國寺（元徳二年一三三〇・鎌倉時代。今から約七百年前に、尼寺ヶ原に真言宗として開創）

開山 興國尼

開基 大掾高幹 興國寺殿涼峯浄清大禪定門

曹洞宗清涼寺

開山 寒室永旭大和尚

開基 佐竹左衛門尉義里（南家初代）。移転中興開基 佐竹左衛門尉義種（南家三代目）。

本尊 虚空蔵菩薩。

宝物 三蔵法師・大般若経六百卷・額「市中禅林」唐大通事林道栄書・「興國山」東皐心越書

霊場 三十三観音霊場（永代供養塔） 八十九番地藏霊場（水子地藏）

府中藩関係の墓

家老 初代澁江監物好教・四代澁江監物・最後の家老七代澁江監物好直。

家老 岡部次郎左衛門。

代官 篠原郷衛門。

郡奉行 田中弘在衛門・山口幸太夫・山口小野左衛門。

隊長 曾我銚次郎（戊辰戦争）

藩医 手塚良雲（手塚治虫先祖の分家）。幕末最後の漢方医 尾躰子順先生。